

ばんけい

教育ほつとにゅーす  
かわら版こ みち  
教育の小径No.69  
7月号  
2014 July

今月のことば

がく ちん おう とう な  
学問に王道無し

「王道」とは近道や安易な方法のことで、学問（勉強すること）には安易に修得できるような方法はないということです。こつこつ努力することを奨励しています。



国士舘大学教授  
北 俊夫先生

## 学習評価はテストだけで十分か

- テストの実施時期は、授業の事前、事中、事後の3カ所があります。それぞれの目的を明確にして実施し、結果を指導に生かすことが大切です。
- 子どもの学習状況を多面的、総合的に評価するとき、テストだけでなく、教師の観察、子どもの発言やノートの分析など多様な方法を取り入れます。

今月の記念日

## 童謡の日(7月1日)

1984年に日本童謡協会が制定しました。児童文学者である鈴木三重吉が、1918年(大正7年)に童謡・童謡を扱った児童雑誌『赤い鳥』を創刊した日にちなんでいます。

## 目的を明確にした実施を

子どもの学習状況を評価する伝統的な手段にテストがあります。国語科、社会科、算数科、理科などではペーパーテストが実施されています。体育科では実技テストが一般的です。音楽科でも楽器を演奏したり歌を歌ったりする実技テストが行われることがあります。また、実技系の教科では両者を実施したり、完成した作品を評価したりすることもあります。

テストは、授業の事前に行うプレテスト、授業中や単位時間ごとに行う小テスト、それに単元末や学期末などに行う総括的なテストと実施の時期によって大きく三つに分けることができます。テストと言えば、一般的に三番目を言います。

これらのテストには、結果の活用という観点からそれぞれ固有な目的があります。プレテストは、その時点での子どもの実態を把握するものです。結果はその後で作成される指導計画や学習指導案に生かされます。生かすときのポイントは、教科やテストの内容によって違ってきます。

小テストは、単位時間ごとの学習状況を随時把握・確認するものです。つまづきが見られたときには、その場で

あるいは次時の指導に生かされます。指導に生かす評価としての性格ももっています。

単元末などのテストでは、これまでの学習成果を総括的に評価します。評定(成績評価)のためのデータとして活用することができます。この時点ですまづいている子どもがいたときには、改めて指導する必要があります。

いずれのテストにも、結果をその後の指導に生かし、子どものつまづきを無くすという目的があります。テストは、どの子どもにも確かな学力をつけるために行われるものだという目的を改めて確認したいものです。

## ほかの評価方法も取り入れて

ペーパーテストは「知識や技能」の習得状況を評価するときには優れたものです。わかっているかいないか、できるかできないかを客観的にとらえることができるからです。しかも多数を対象に短時間に評価できるというメリットがあります。

実技テストでは、教師が直接観察して一人一人の技能の習得状況を確認することができます。例えば鉄棒で逆上がりを見せてみると、できるかどうかをその場で判断することができます。しかし、時間がかかるところが難点で

す。教師の主観が入り、見栄えや出来映えが優先されることもあります。

いずれのテストにおいても、成果や結果が優先されるところが利点です。一方、途中の努力の状況が見えにくいところがデメリットです。

学習意欲や思考力、判断力、表現力などの能力の評価は、従来の考え方によるテストでは困難だという指摘があります。意欲などの資質や能力を評価するための新たなテスト問題の開発が課題になっています。

テストのデメリットを補うために、授業中に一人一人の学習態度や行動を観察したり、発言内容やノートの記述内容、作品などを分析したりして、一人一人の学習状況を多面的、総合的に評価します。また、一人一人にインタビューしたり個別面談を実施したりして、子どもの本音や内面を聞き取るようにします。ここでは、教師に観察力、分析力、そして洞察力などの力量が求められます。子ども自身に自己評価させたり、子ども相互に評価させたりすることも効果的です。それぞれの評価方法にはメリットとデメリットがあります。

多様な評価方法を取り入れることによって、ペーパーテストや実技テストのデメリットを補うことができます。

## 「育てたように子は育つ」

さまざまな生き物は、周囲の環境の影響を強く受けながら成長していきます。人間も例外ではありません。

「ヒトはよき環境の中でひとになる」と言います。「ヒト」には生物的な意味あいがあり、「ひと」とは人間という意味です。人は環境によって教育されるということでしょう。

環境には親や教師、友だちなど人的な環境と、教科書や参考書、机、黒板、掲示板など物的な環境があります。そして、それらが醸し出す雰囲気や空気のような目に見えないものも環境を構成しています。これらの中でも特に重要なのは人的な環境です。子どもは周囲にいるおとなをモデルにして成長していきます。家庭においては家族が重要な役割を果たしています。

アメリカのダニエル・ゴーマンは『EQ—こころの知能指数』（講談社、土屋京子訳）の中で「（親の）暴力的な性格は次の世代にも伝わるらしく、彼らの子供たちもやはり親と同じように小学校で暴力問題を起こした」と報告しています。

ハツカネズミに騒音を聞かせながら育てたら、そのハツカネズミはストレスを蓄積したのか、胃潰瘍になってしまったと言います。また、畜舎（家畜小屋）の中で乳牛にモーツァルトの名曲を聞かせたら、乳をたくさん出すようになったということを知ったことがあります。いずれも、よき環境と健全な育ちとは深くかかわっていることを示している事例です。

相田みつをは、かつて「育てたように子は育つ」と言いました。子どもの成長に直接かかわっているおとなの役割を改めて確認したいものです。

## 領土に関する教育

文部科学省は、これまでの北方領土に加えて、竹島と尖閣諸島に関して中学校社会科と高等学校の地理歴史科、公民科の解説書を一部改訂しました。これはわが国の領土に関する教育を充実させることに狙いがあります。中学校の地理的分野を例にすると、次のように示されています。アンダーラインの部分が追加された改訂箇所です。

「竹島について韓国に対して累次にわたり抗議を行っていることなどについて的確に扱い、我が国の領土・領域について理解を深めさせることも必要である。なお、尖閣諸島については、我が国

の固有の領土であり、また現に我が国がこれを有効に支配しており、解決すべき領有権の問題は存在していないことを、その位置や範囲とともに理解させることが必要である。」

政府が平成25年に実施した世論調査によると、韓国による竹島の不法占拠を認識している人は63%、尖閣諸島が沖縄県に属していることを知っている人は66%だったといえます（読売新聞、平成26年1月29日付）。こうした国内の状況が、今回の解説書が改訂された背景にあります。

改訂の内容は、今後中学校での社会科の指導や教科書の記述に反映されていくものと考えられます。小学校社会科の解説書では、わが国の領土に関して改訂されませんでした。

## コラム 北 俊夫の「3.11」体験談(9)

### 浜松町駅／その先は？

浜松町駅までの乗車時間には約25分要しました。JR山手線や京浜東北線はまだ運休のままでしたので、そこからどう移動するかが問題です。しっかりした計画と見通しがあったわけでもありません。6時過ぎのことでした。

浜松町駅から5～6分歩くと都営地下鉄浅草線の大門駅があります。浅草駅経由で銀座線に乗換えると上野駅までは行けると期待し歩きました。しかし、大門駅はすでに大勢の乗客でごった返し、駅員が懸命に乗客整理していましたが、とても乗車できるような状況ではありませんでした。

そうした気持ちに余裕が持てないときに、ふと目に入ってきたのがジュースの自動販売機でした。野菜ジュースを買って飲み干したら、自分でもわかるくら

い元気が出てきました。昨日の昼食から飲まず食わずでしたから、栄養が補給されたのでしょうか。心にもゆとりが出てきました。

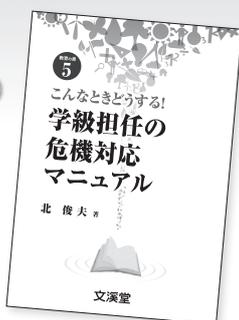
ふと、大門駅の案内板を見ると、この駅は都営大江戸線も通っていることに気づきました。心にもゆとりもなく、この案内板に気がつかなければ、また違った問題解決をしていたかもしれません。大江戸線に乗り、次の麻布十番駅で降り、埼玉高速鉄道線に直通運転する地下鉄南北線に乗換えると、自宅のあるさいたま市内の浦和美園駅まで移動できます。列車が南北線終点駅止まりであったとしても、埼玉県手前の赤羽岩淵駅までは辿り着くことができます。

どの駅も人、人、人の波でした。それぞれの人がそれぞれの方法や手段を考えながら、自宅などの目的地に向かって進んでいるのだなと思いました。

## INFORMATION

### こんなときどうする！ 学校担任の 危機対応 マニュアル

◎著者 北 俊夫  
◎定価 950円＋税  
◎発行 株式会社文溪堂  
A5判 96ページ



### 学級担任として こんなとき、どうしますか？

～目次より～

- 「不審者」が校舎内を歩いている
- 給食中、胸の痛みを訴えた
- 学校で物が無くなった
- 頭の毛を茶髪にしてきた
- 理科の実験中に事故が発生
- 通知表の内容についてクレームなど

## 編集後記

ときに読者先生から「職員全員で（本紙を読み）勉強させていただいています」というメールをいただきます。貴重なメッセージありがとうございます。ご感想やご意見、また今後北先生にこのようなテーマを取り上げてほしいというご要望ありましたら、ぜひ下記のEメールでお教えください。（T記）

企画・編集：ぶんげい教育研究所  
発行：株式会社文溪堂  
発行日：2014年7月1日